

MTM 導入・構築セミナー感想文

医院名 : 竹内歯科医院 (福岡県北九州市)

実施日 : 2011 年 8 月 2 日 (火) ~ 3 日 (水)

実施内容 : MTM 導入・構築セミナー (1~2 日目)

- ・ 日吉歯科診療所における MTM の流れ
- ・ 真の患者利益とは
- ・ MTM における歯科衛生士の役割
- ・ う蝕の病因論
- ・ 他

受講者各位のレポートについては、以下の pdf ファイル参照下さい。

以上

レポート作成シート

レポート課題 『徳本さんMTM導入・構築セミナー』に参加して	レポート作成日 23年 8月 7日
氏名 出口 裕美	部署／役職 DH
レポート内容(以下の3つの項目についてまとめてレポートを作成してください。)	
1. セミナー等に参加した目的	
2. 学んだこと	
3. 今後当院に学んだことをどう活かしていきたいか	
1. MTMを導入して数年が立ち、改訂を行いながら実施している。ただ、MTMを理解し実践している第三者から評価やアドバイスを受けたことがなかった。今回のセミナーで徳本さんに実際に医院を見ていただくことで更なるMTMのレベルアップを図りたいため。また、DHが行っていることを臨床やロープレを通してチェックしてもらい、DHの知識、技術を上げるため。	
2. ≪日本の現行の歯科医療とOPの違い≫ 現行の歯科治療は早期発見・早期治療が主体でこの30年でDMFTはほとんど変化がない。いかに早く若年層へ対する予防を始めるかが大切である。歯が生涯残るということは全身の健康につながり、QOLも上がるのは当然のこと。むし歯や歯周病は予防ができるもので、治療をしていない天然歯に勝るものはなく、それを守っていくのがOPの役目である。今はマイナーなOPの考え方もそれが主流となる日は必ず来る。そのためにMTMを実践し、歯が残っているという結果を出すために日々努力していくことが求められており、口腔内を多角的に診て、リスクコントロールができるシステムを持つ診療室が不可欠である。	
≪日吉歯科診療所のMTMから学んだこと≫ 全ての患者を受け入れる必要はない。医院の方針に理解、納得して治療やメンテナンスを受けたいという患者を大切にし、時間はかかるけれども患者を教育すること。そうすることで、医院と同じ価値観を持ち信頼をしてくれる患者が増えていくことにもつながる。 患者の主訴を治すことはもちろん大切なことであるが、今残っている歯を生涯にわたって残すことのほうがもっと大切。そのためのMTMであることを理解してもらう必要がある。そのためには規格性のある資料を収集すること、患者に分かりやすく説明ができること、限られたケアタイムを有効に使うこと(無駄を作らない)等DHに求められていることはたくさんある。 MTMを実践する私たちがいかに天然歯の価値を認識し、歯を守るという熱意と覚悟を持って患者に向き合うこと。人を動かすことは難しいことで、結果もすぐには出ないけれども地道に継続していくことで少しずつ医院や患者、地域を変えていくことができるのではないか。	

レポート作成シート

《Hygeia歯科衛生士について》

常にプロフェッショナルであること、診療所にどのようなことができるのか考えること、自身自身に投資ができること。OPの診療室で働くDHにとって大切なポイントである。DHが担う役割はカリエスや歯周病の発症の前兆を感じ取り、その原因の除去と状態を見極め、適切な時期に歯科医師の診断を求められることである。そのためにはDHとして、研鑽を積み、患者を健康な口腔内へと導くために何をすべきかを自らが考え行動していくことが必要。それを実践することで患者が変わり、診療室が変わり、地域を変えていくことができる。

《う蝕の病因論とロープレから学んだこと》

今までの歯科治療は、できてしまったカリエスの修復に重きを置くことが主体となっていた。しかし、カリエスのプロセスに目を向けずに歯科治療を続けていけば結果、歯を失うことにつながるだけである。カリエスのプロセスのう窩を形成する前の段階に介入することで予防をすることが可能である。その第1の実践者はDHであり、カリエスの病因論を深く理解しておかなければならない。ロープレを通して、感じたのはまずトータルリスクやカリオグラムのよさを十分に発揮できていないということ。グラフの見方やどのタイミングで使うのか、また説明の仕方などうまくできていない部分が分かったので改善していく。また、同じ結果であったとしても患者に対しての予防プログラムは異なる。そのアプローチの仕方を徳本さんの指摘や説明でたくさんのヒントを得ることができた。写真やレントゲンからリスクを予測し、サリバテストの結果と比較、そこから見えてくるものをどう患者に還元するか、予防に対してモチベーションを持ってもらうか。そこまで深くサリバテストの分析や患者の生活背景、性格等を探れていなかったので多角的に見ていくように意識していく。

3. 今回のセミナーを通して感じたことは、今私達が行っていることは間違いないということを確認できたことである。今はまだ、結果もなかなか見えず、DHとしても手探り状態であるが継続することできっと患者や診療室、地域まで変えることができると思った。そのためにもっとDHとして必要な知識、スキルを確実に身につけていくこと、また医院の中でまだ統一されていないこともたくさんあるので整理すること、担当患者に対して口腔内をよくするポイントをしっかりと伝えて理解していただくことを念頭にこれから頑張っていく。

担当者承認		院長承認	
-------	--	------	--

レポート作成シート

レポート課題 第1回徳本さん MTM セミナー		レポート作成日 23年 8月 12日	
氏名 大杉 朱音		部署／役職 歯科衛生士	
レポート内容(以下の3つの項目についてまとめてレポートを作成してください。)			
1. セミナー等に参加した目的			
2. 学んだこと			
3. 今後当院に学んだことをどう活かしていきたいか			
1.MTM の必要性の理解と、サリバテストの結果説明をより患者さんへ理解しやすく、予防に取り組んでもらえるような説明のポイントをつかむため。			
2.MTM を患者さんの口腔の健康を守る治療の流れにするためには、 補綴物の入っていない、歯周病も初期～中等度までのより健康な口腔状態での歯科との関わりがかぎとなる。 そのため、歯周病に関して、初期～中等度までの患者さんは必ず改善し、守る義務がある。 むし歯や歯周病が発症している時、元のリスクを一つ一つ理解しやすいように説明し、 、軽減しなければ再発や進行は止められない。 (蛇口を閉めることを患者さんに理解してもらう)			
口腔の健康を守るために、患者さん自身の口腔の現状を知ってもらい、治療法や予防法を理解してもらうことは、初期治療までの段階がとても大切。 レントゲンや歯ぐきの状態など、患者さんにも自身の資料を見て、現在歯周病の進行はどのくらいか、健康な状態と比較してどうか、など患者さんの口腔内の健康が今どの位置にあるかを認識してもらいことが大切。			
初期治療中の SRP の時は出来るだけ痛みを与えないように配慮する。強い痛みは中断の原因になり、健康になるチャンスを邪魔することになる。 しかし、深いポケットの場合痛みを気にして、マージン付近の歯石除去のみになってしまうと、ポケット底部の歯石が残り、急発を起こしてしまうので浸麻下で行う。			
メンテナンス時は、ポケット内+臼歯の隣接面のプラーク除去を目的とし行う。 メンテナンスに対する価値を理解してもらうことが大切。			
担当者承認		院長承認	

レポート作成シート

サリバテストの結果説明

脱灰と再石灰化を理解し、再石灰化のほうにどうアプローチするか考えることが大切。

虫歯菌やだ液の特徴を理解し、その上で患者さんは何が改善必要か考える。

トータルリスクを下げるように取り組んでいく。

フッ素ひとつにしても、口腔内に残っているか、うがいの仕方もチェックし、生活習慣を把握することが大切。

3. いままでのだ液検査の結果説明は患者さん個人に合わせて話しているつもりでもどこか、代わり映えのしない違和感と患者さんに結果を還元できているか不安がありました。

今回で患者さんと目標を共有し、結果説明でもっと患者さんが動いてくれるような話しが出来るよう、意識して話していきたいです。

基礎から学びなおし、患者さんの健康観を高めれる DH になるよう頑張ります。

レポート作成シート

レポート課題 第一回 徳本美佐子DH MTM導入セミナー	レポート作成日 2011年8月12日		
氏名 竜口 優香	部署／役職 歯科衛生士		
<p>レポート内容(以下の3つの項目についてまとめてレポートを作成してください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セミナー等に参加した目的 2. 学んだこと 3. 今後当院に学んだことをどう活かしていきたいか <p>1. MTMの大切さの理解・サリバテストの結果説明のポイントをつむため</p> <p>2. 歯が残る＝全身の健康・QOLの向上につながる DMFT指数の無い段階でどれだけ介入できるかがポイントである。 個人によって違う一つ一つのリスク因子を軽減することで、評価後は無理なく無駄なく確実にむし歯と歯周病の予防が実行できる。水道の蛇口をしめることが大切。 また歯周病においても健康～中程度の患者さんをいかに守っていけるかが歯科衛生士としての大きな役割である。</p> <p>日吉歯科でのMTMの流れ 初診→説明1→初期治療→再評価1→治療→再評価2→説明2→SOT→メンテナンス</p> <p>初診から初期治療までの患者さんとDHの関わりがその後の患者さんのお口の健康を守り続けていくために特にとても重要。現状を伝える説明1ではツールをきちんと活用し、現状と平均を比較してもらい自分の状態を理解してもらうことが大切。また初期治療を行うにあたって、歯周病菌の存在を認識してもらい、どうすれば骨がとけていかないのかを理解してもらうことが大切。</p> <p>また初期治療やメンテナンス時にはポケット内はもちろんだが、臼歯部隣接面のプラークをきちんと落とすことを意識して行う。超音波を使う際は手首を小刻みに動かし使用する。痛くないSRPをすることが大切！痛いとお患者さんはドロップアウトしてしまう。</p> <p>MTMにおける歯科衛生士の役割として、患者教育をし患者さんの口腔の健康を守ることによりメンテナンスの価値を上げることが求められている。 またウ蝕も歯周病も予防が出来るということを患者さんに知らせ、歯を健康に保つ内科的治療にこそ対価を支払う価値があることを伝えなければならない。</p>			
担当者承認		院長承認	

レポート作成シート

(カリオロジー)

脱灰と再石灰化を理解し、どうやって再石灰化させるかに目を向ける。

SM菌の特徴→SM菌の殆どは19~31カ月の間に主に育てた人から感染する。一度定着するとなかなか減らしにくい。酸性の中で育つことができるため、常に食べ物が入っている子は菌が定着しやすい。

LB菌の特徴→付着能力を持たないが、定着できる『すみか』があると増殖をおこし、しばしばウ蝕の深部に見られることから、脱灰の後期に重要な役割を果たすと考えられている。口腔清掃状態が悪かったり、甘いものを頻繁に取ったり、不良補綴が多いと増える。

唾液→自浄作用・緩衝作用・再石灰化

健康な人の場合15歳~80歳まで耳下腺の分泌はほとんど変化しない。緩衝能は耳下腺からの唾液が強い。よく噛むことで耳下腺からの唾液を増やせる。

顎下腺・小唾液腺は加齢とともに唾液量低下。女性においては閉経時には分泌量がさがる。

フッ素→20歳児カリエスフリー90%を達成するにはフッ素の利用が不可欠である。萌出前よりも萌出後の局所的応用の方が有効。家庭での継続的な利用が良い。全身応用より局所応用。

口腔内に常にフッ素があることが大切。

サリバテスト→患者さんの脱灰に傾いている要因を知り、予防の対策を立てる。

この患者さんをどう動かすかを考え見えないリスクを伝えることが大切。その際患者さんにも分かりやすい指標としてトータルリスクを活用する。その患者さんのトータルリスクから、どのような予防法であれば実践できるのかを相談し、リスク改善のシュミレーションをしてあげる。

Total risk

(0~5)新たなウ蝕は出来にくい

(6~11)唾液の力が及びにくい歯面やプラークの残るところに新たなむし歯が出来る可能性

(12~17)新たなむし歯の出来る可能性がとても高い

(18~21)とても危険！リスクを下げる努力とともにプロフェッショナルケアの間隔を短くする等対応が必要

サリバテスト結果を伝える際は患者さんの背景や性格を考慮して伝え方を工夫する。

3. 今回念願だった徳本さんのセミナーを受講し、とても勉強になりました。特にサリバの結果説明では今まであまり活用できていなかったトータルリスクを使っての説明がとても分かりやすく、患者さんにも自分のこととして受け入れてもらえる大事なツールだということが分かり衝撃を受けました。どんな説明でも徳本さんには患者さんの背景を考えた温かみや重みのある言葉がたくさんあり、それが私に今無いものだと痛感しました。次回までの2カ月でまずはサリバ結果から患者さんの背景や気持ちに沿った、予防プログラム提供を意識して取り組もうと思います。

患者さんの一番近くに居れるのはDHなので、信頼される、この人とずっと一緒に健康管理していきたいと思ってもらえるDHになりたいとまた初心にかえることが出来ました。ありがとうございました。

レポート作成シート

レポート課題 徳本美佐子DHのセミナーを受講して	レポート作成日 23年8月2~3日
氏名 中村 朱里	部署／役職 歯科衛生士
レポート内容(以下の3つの項目についてまとめてレポートを作成してください。)	
1. セミナー等に参加した目的	
2. 学んだこと	
3. 今後当院に学んだことをどう活かしていきたいか	
1. セミナー等に参加した目的 MTMの理解を深め、DHとしてのスキルを上げるため。	
2. 学んだこと 真の患者利益とは？ 現在の歯科治療は、疾患を見つけたらすぐに削って詰める治療を行う。これでは、疾患の原因を取り除くことにはならず、治療を繰り返す原因となってしまう。まずは、疾患の原因を除去し、その上で治療を行うことで命の寿命と歯の寿命を逆転させることが可能となる。今現在残存歯が少ない患者さんに対しては、その人の歯を残すことも大切であるが、その人の家族、孫などに伝える気持ちで知識を与えていくことも大切。 メディカルトリートメントモデルとは、「患者の訴えを把握し」「必要ならば検査を行い」「疾患の原因を取り除き」「症状を軽減させる」さらに「治療結果をモニターし」「再発予防の要所の処置を講ずるもの」である。これを実践することで初診～メンテナンスまでを生涯を通して患者の健康を守り育てることができる。 MTMにおける歯科衛生士の役割とは？ 日吉歯科では、初診の患者さんが来院したら、「なぜこうなったのか？」「リスクは高いのか低いのか？」「このリスクは改善できるのか？」と考えるところから始める。そして、MTMを実践しながら、進めていく。このとき、PやCの病因論や進行パターンの説明、サリバテストの結果説明(現状と、予防プログラムの提案)などを数回にわけて行い患者教育をする。(患者に歯周検査の結果やサリバテストの結果を説明するときには、目標数値を設定すると成果をあげやすい) 患者さんにう蝕も歯周病も予防ができることを伝え、患者さんの口腔の健康を守ることによりメンテナンスの価値を上げることが求められている。MTMの難しさは、人を動かすことにある。歯科衛生士は技術だけでなく、話術や様々な媒体を駆使し患者を動かしていく役割がある。	
う蝕の病因論 う蝕のプロセスは、「う蝕原生菌の感染」「歯面への定着」「う蝕原生菌によって産生された酸による脱灰」「う窩の形成」の4段階に分けることができる。今までは、プロセスの結果できてしまったう窩の修復に重点を置いていた。しかし、これからはう蝕のプロセスを停止させることで、健康な歯を守る診療こそが求められている。 サリバテストによりう蝕のトータルリスクが把握できれば、そこから再石灰化及び再石灰化を補助するプロセスを考えていく。	

レポート作成シート

トータルリスク0～5: 新たなう蝕の発生の可能性は低い

6～11: 唾液の流れの悪い部位や清掃不良の部位はケアが必要

12～: 新たなう蝕の発生の可能性がかなり高い。積極的なケアが必要

・唾液の分泌

生理的な唾液分泌速度の変化

⇒睡眠時にはほとんど唾液の分泌が停止するため、寝る直前の飲食習慣はきわめてハイリスク

・薬剤による唾液分泌の抑制

⇒唾液の分泌は健康な人の場合、15～80歳まで耳下腺の分泌はほとんど変化しない。(耳下腺の唾液は緩衝作用が高い。よく噛むことで分泌を促進する)それに対して、顎下腺や小唾液腺は加齢とともに唾液量が低下し、女性においては閉経期には分泌量は下がる。

しかし、高齢者の場合、基礎疾患の治療のため、何らかの薬剤を服用していることにより、唾液分泌が低下していることが多い。若年者でも、花粉症に対する抗アレルギー薬の長期服用によって唾液分泌が低下している場合があるので注意が必要。唾液が少ない人の場合、フッ素を使っても唾液が少ないので、フッ素が取り込まれにくい。その場合はMIペーストで歯面に直接ミネラル分を供給するほうが効果が高い。

・食生活

食生活指導の要点は砂糖の摂取量だけでなく多くの炭水化物が原因。患者に無理なく長期にわたって継続できる習慣を獲得してもらうことが必要。「〇〇を食べてはダメ!」という禁止ではなく、飲食の回数を少なくすることが基本。時間を決めて定期的に食べるのであれば一日5回までの飲食は問題ない。しかしコーヒーに少しでも砂糖が入っていればそれだけでも脱灰してしまうので、飲み物の指導も注意が必要。

・フッ化物

フッ化物のう蝕予防効果

⇒「脱灰の抑制・再石灰化の促進」「歯質の強化」「細菌の抑制(抗酵素作用による酸産生の阻害や菌体内への当の取り込みの阻害、抗菌作用)」がある。フッ化物は低濃度のものを毎日使うことで効果が高まる。再石灰化の際に口腔内にフッ素があることが大切。＝口腔内に常にフッ素があることが大切! フッ素入り歯磨剤は、市販のものでもかまわないが、使い方に注意。使う量はたっぷり(市販のものであれば1cmくらい)、最後のうがいはおちょこ一杯分で一回だけ。これを徹底してもらう。どうしてもできない場合は他の対策を提案する(例えばオラブリスを使用するなど)。

・唾液検査の結果説明

ただ単に結果を話すだけでなく、患者さんにこの検査を受けてよかったと思ってもらえるように伝えなくてはならない!

まず、「カリエスのリスクが高いのか低いのか」「その原因は何か」そして、「トータルリスクをどこまで下げるのか目標を定め」、「その達成のために患者自身が何をすればよいのか」を明確にし、予防プログラムを相談しながら決めていくことが大切。

レポート作成シート

3. 今後、学んだことを当院にどう活かしていきたいか

今回のMTM構築セミナーでは、MTMの理解を深め、その中でDHとして自分は何をすべきなのかということ学ぶことができましたと思います。今までは教えられたとおりに初診からMTMの流れに沿って患者さんを診てきただけで、DHとして患者さんに何を伝えなければいけないのか、その伝え方はどうすれば良いのかということが明確になっていませんでした。特に唾液検査の結果説明は、自分の中でとても苦手意識が強く、患者さんに唾液検査の価値を伝えきれていませんでした。しかし、今回のセミナーで実際に徳本さんと予防プログラムを作成し、結果の説明を見ていただくことで、改善点などを自覚することができました。唾液検査では、単に結果だけを見るのではなく、口腔内やレントゲンを見てその患者さんのリスクを予想し、結果と照らし合わせる。そこで、「どうしてそうなったのか?」「そのリスクは改善できるのか?」を常に「考える」ことが大切であると実感しました。考え方が分かったのでこれから唾液検査の結果説明をするのが楽しみです。

担当者承認		院長承認	
-------	--	------	--

レポート作成シート

レポート課題 徳本さんの講義を聞いて	レポート作成日 2011年08月6日		
氏名 川津 昌江	部署／役職 歯科助手		
レポート内容(以下の3つの項目についてまとめてレポートを作成してください。) 1. セミナー等に参加した目的 2. 学んだこと 3. 今後当院に学んだことをどう活かしていきたいか 1. 講義をきいていかに自分のなかにとりこんでいくか 2. 確かに新しいことに取り組んだり、挑戦して成功するまでには時間はかかるもの だとおもう。それが時間をかけても成功するかどうかは、やはりそこに取り組む 姿勢や知識、実行力が必要だとおもう。当医院も目標にむけては取り組んでいて いるが今日の話聞いてもう一度、再確認、再認識が必要ではないかと感じた。 確かに目指しているところは同じだが、根本的な意思統一がしっかりできていないの ではないかなと感じた。 個人的には全然未熟で、いろんな知識をもちいろんな方向から見る目、感じ方を そだてなければいけないと思った。自分のしなければいけないことがすこし見え た気がした。 3・個人的には、医院の方針をこまかく再確認してほしいとおもう。 そして、みんなで意思統一して今後の竹内歯科医院をさらに向上させていきたい。 自分のできる範囲で、勉強していきたい。少し目が覚めたようないい講義をききました 今日は参加できてよかった。			
担当者承認		院長承認	

レポート課題 徳本美佐子先生のセミナーに参加して	レポート作成日 2011年 8月 6日		
氏名 浅田節子	部署／役職 受付		
<p>レポート内容(以下の3つの項目についてまとめてレポートを作成してください。)</p> <p>1. セミナー等に参加した目的</p> <p>2. 学んだこと</p> <p>3. 今後当院に学んだことをどう活かしていきたいか</p> <p>1 現在知りたいと思うことや、竹内歯科医院に必要なだと感じることをテーマにあげ、知識の向上・医院全体のレベルアップを図る。</p> <p>2 一番心に残ったこととしては日吉歯科への思いであったり、プロとしての意識と責任感ではなかったかと思えます。自分自身に投資をしてくださいという言葉には、それはすべて自分の知識であったり、情報として役立ち、自分を成長させるものだということ。(中々難しいことではありますが、)でもそれが今の徳本先生なのですね。</p> <p>DH をそだててられる DH になりたい。もっと早く教えていただけていたらと思いました。(DH も私も)</p> <p>OP としての DH は 患者は早期発見のために来院しているのではなく、疾患の予防のために来院していることを肝に銘じる必要がある</p> <p>メンテナンスに通い続けることで 継続的なリスク管理ができている 歯を失わずにいる } 結果が出せる診療室に進化する</p> <p>ホームケア＝リスク管理→だれでもできることがプラークコントロール(ブラッシング) PC チェックをなぜしていないのですか？と云われた一言にすべてが含まれているように感じました。</p> <p>3 システムの構築ということが言われていますが、その前に体制を整えることが大事なのは、又医院の MTM に対して再確認を行うことが必要なのではないのでしょうか？ 非 MTM の患者に対して、受付でどのようにすればよいか？OP の医院としてどのような対処をすれば、患者さんのためになるのか？いまだに分かっていないのですが、もう少し頑張ってみようと思っています。</p>			
担当者承認		院長承認	

レポート作成シート

レポート課題 真の患者利益を求めて・日吉歯科大人の MTM の流れ	レポート作成日 2011 年 8 月 2 日
氏名 八 百 弘 子	部署/ 治療部
レポート内容(以下の3つの項目についてまとめてレポートを作成してください。) 1. セミナー等に参加した目的 2. 学んだこと 3. 今後当院に学んだことをどう活かしていきたいか 1. 当院が目標としている日吉歯科医院の事を知りたかった。 2. *最高の歯科医とは、 子供であれ、高齢者であれ 予防を通して健全な歯を持てるような医療をする歯科医師のこと。 * 歯科診療所の役割 人々が生涯にわたって口腔の健康を維持し、健全な機能を全うすること。 ・ 日本の診療室 住民は具合が悪くなったら通院。 ・ 一般的な歯科医院 痛い所の処置 修復補綴・エンド・外科など。 治療終了。 初診を繰り返す。 ・ 歯科先進国 教育された DH が専用チェア(個室)で口腔ケアを任される。 必要あれば治療へ。 ・ 健康を守り育てる歯科医院 MTM を実践。 初診～メンテナンスまで生涯を通して患者の健康を守り育てる。 生涯 自分の歯で食事をし、自然の審美を損なわず楽しく会話も出来る。 ・ メンテナンスとは・・・ 疾患の有無やその進行の多少に関わらず、健康な口腔の維持を図るために実施される。 生涯を通しての継続的な歯科的アプローチである。 それを行うためには、医療者は患者の口腔内及び全身のリスクを知り、又年代におけるリスクを理解した上で、縁上縁下のバイオフィルムの破壊と除去を継続的に行い、家庭療法についての適切な指導を行わなければならない。そのためには、医療者は、多くの専門的な知識と的確な技術を保持していることが必要で、それを適切に生かし患者が安心して継続的に来院できるような人間性やコミュニケーション能力が欠かせないまた、診療所は快適で清潔で個人のプライバシーが守られた医療環境を備えていなければならない。	

・ オーラルフィジシャンとは・・・

口腔二大疾患をバイオフィルム感染症ととらえ、原因に対して取り組む。つまり、様々なリスクを診査、診断しその処置方法を決定する。その後 疾患の発症と再発を予防するためにメンテナンスを継続する。

* メディカルトリートメント

患者の訴えを把握し、
必要ならば検査を行い
疾患の原因を取り除き
症状を軽減させる
治療結果をモニターし
再発予防の要所の処置を講ずるもの

* 歯牙を喪失する原因の95%はう触と歯周病であり、どちらも予防できるということを国民に知らせる必要がある。そして切削、修復といった外科的治療よりむしろ、健全歯を健全に保つという内科的治療にこそ対価を払う価値があることを伝えなければならない。

今までは、出来てしまったう触に対する治療を繰り返すことによって、最終的に歯を失うことになる。

リスクを減らし、天然歯をCとPから守る意識こそが大切である。

(500人の担当患者を持ち、質の高いメンテナンスが出来、そのデータを持っている人をハイジア歯科衛生士と呼ぼう)

3. 飲食回数を減らすようにします。

担当者承認		院長承認	
-------	--	------	--

レポート作成シート

レポート課題 徳本さんセミナー	レポート作成日 23年8月8日		
氏名 本田 唯	部署/役職 DH		
<p>レポート内容(以下の3つの項目についてまとめてレポートを作成してください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セミナー等に参加した目的 2. 学んだこと 3. 今後当院に学んだことをどう活かしていきたいか <p>① セミナー等に参加した目的 知識向上のため</p> <p>② 学んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日吉歯科がどんなところか ・ 熊谷先生がどういう人か ・ MTMの流れなど <p>③ 今後当院に学んだことをどう活かしていきたいか</p> <p>手袋が分からないことがたくさんあったので、ちゃんと勉強して分かるようにがんばりたいです。</p> <p>竹内歯科医院も予防にすごく力を入れているので、私もちゃんと予防に力を入れます。</p> <p>私は治療のアシスタントを勉強していますが、患者さんにも予防に力を入れてもらえるように、仕事でもつねに予防について考えていきたいです。</p>			
担当者承認		院長承認	

『徳本さんの MTM 構築セミナーを受講して……』

河村 美保子

1: 今回のセミナーで学んだこと

- ・ メディカルトリートモデルの確認
- ・ なぜ MTM が必要なのかを再確認
- ・ 原因を除去するのが歯科衛生士
- ・ その原因を把握することが大切。サリバテストは必須である。
- ・ チェアタイムを有効に使うために常に工夫が必要。
- ・ 超音波スケーラーの使い方の確認
- ・ 脱灰と再石灰化の確認
- ・ カリオロジーの確認
- ・ サリバテストの説明の確認。レーダーチャートやカリオグラムの有効な使い方。
- ・ 予防プログラムの立て方・伝え方・視点等(脱灰ばかりに目を向けるのではなく再石灰化にも目を向ける)
- ・ SOT ですること⇒なぜメンテナンスが必要なのかを伝える
- ・ メンテナンスの意味の確認(再発予防の要所の処置)
- ・ MTMにおける歯科衛生士の役割⇒健全歯を健全に保つための内科的治療にこそ、対価を払う価値があることを伝えること。そして、私たち歯科医療従事者が天然歯の価値を再認識する必要がある。
- ・ フッ素の利用について……高濃度のものを時々、使用するのではなく低濃度を毎日しっかり使用。

2: 医院へどういかすか

私は新患を見る機会がほとんどなくMTMの流れそのものは理解して実行しているつもりでも、院長が「表面的なMTM・メンテナンスになっていないか？」ということに全くの否定はできませんでした。他のDHと比べ私はチームミーティングにも参加していないので、MTMに付いてもきっと落とし込めていないのだろうと自己分析していました。

なので、今回 日吉歯科で実際働いていらっしゃる徳本さんにお話を聞けることは、本当にいい機会であり、私の年間の目標のひとつである「MTMを落とし込む」ためにしっかり聞いておきたいと思いました。

院長をはじめ裕美先生に、こういう機会を与えていただき感謝しています。

徳本さんの全体的な印象としては、やはり『すごい!!』のひとつことです。知識の豊富さはもちろん、コミュニケーション・DHとしての意識・経験……。さすが日吉歯科で働いてる方は違うなあと思いました。なにより物を見る視点が私とは全く違うことに感動しました。私はひとつの形を正面だけ、見えているところだけしか見ていないことにものすごく気がつかされました。

徳用さんの場合は、横からも上からも下からも、そしてその形の奥のほうを透かして見ているような感覚をうけました。「見てるところが全然違う! 範囲がひろい」とおもいました。

私の知識の無さを思い知らされ、熊谷先生のお言葉ではないですが、『DHのライセンス返上かな』とも思いましたが、まずは私の出来ることから始めて行こうとおもっています。

カリオロジーを勉強し直し、徳本さんにいただいた資料をなんども見直し、患者さんに正しい知識を伝えカリエスフリーの子供達を増やしていく。私は今のところ子どもの担当がいないのでお孫さんやママ世代に伝えて行きたいと思います。サリバテストをすることは少ないですが、一つ一つの項目を再度、確認しいつでも説明ができるようにしておきたいと思います。メンテナンスに関しても同じようにもっと、数値を使って患者さんに予防の目標値と一緒に作ってそこに向かって一緒にやっていくというスタイルを確立していきたいと思います。また、この2日間でも MTMIについてもかなり落とし込めた気がします。